

評価結果概要表

作成日 平成 22 年 2 月 2 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0572510659号
法人名	イノウエ ホウジン セイランカイ 医療法人 青嵐会
事業所名	グループホームたんぽぽ西目
所在地	由利本荘市西目町沼田字新道下2-6 (電話) 0184-32-1616
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成21年12月24日

【情報提供票より】 (平成21年11月25日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 12 月 7 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 (常勤 7 人 非常勤 1 人 常勤換算 7.8 人)

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無 有りの場合償却の有無 <input type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無		
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 0 円
	または1日当たり		900 円

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護 1	2 名	要介護 2	3 名
要介護 3	4 名	要介護 4	0 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 85.1 歳	最低 81 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	本荘第一病院、あいは歯科クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

「その人らしい生活の実現」をめざし、利用者一人ひとりの想いに寄り添い、安心して楽しく、笑顔で生きがいを持った生活を支援することを理念に掲げている。そのため、利用者の担当制をとり、定期的に居室の掃除を共に行い、利用者とは話し合う時間をつくり、意向や不安の把握に努めながら個性や意向を尊重したケアに反映させている。  
また、春の遠足や忘年会を利用者と家族と共に行ったり、通院時にはできる限り家族の付き添いを基本とするなど、家族との関係づくりも大切にしている。  
母体施設の老人保健施設が隣接し、看護師や栄養士による協力体制が確保され、利用者の健康面や栄養面での管理が適切で、利用者及び家族はもちろん、ケアにあたる職員の安心にもつながっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議に利用者の参画を求めたり、広報等の個人情報の取り扱いについて職員間で話し合い、家族にも説明のうえ同意を得るなど、前回評価結果を基にした改善計画に沿って改善につなげている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を日常の実践を振り返る機会と認識し、すべての職員が自己評価に取り組み、職員間で検討しながら管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では前回評価結果に基づいて改善課題を提起し、会議への利用者の参画やスプリンクラー設置など効果的な事業所運営及びサービス提供に向けて意見交換している。 また、地域との連携の必要性を認識してもらう機会と捉え、地域密着型サービスとしてのあり方を確認している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を他人の目につかない場所に設置するなど工夫しているほか、面会時などにも家族の意向把握に努めており、利用者が衣類を洗濯せずに収納するため、気を配り洗濯してほしいとの要望に対しては、職員間で共有し改善につなげている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭りや敬老会に参加したり、母体老人保健施設との合同夏祭りに地域住民の参加を呼びかけているほか、朗読やマジックのボランティア、婦人会による雑巾の寄付など交流を図っており、小・中・高校生の体験学習も受け入れている。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>								
<b>1. 理念と共有</b>								
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員間で話し合いながら、作りあげた理念であり、その人らしく生活できるよう実践されている。			利用者の想いに寄り添い、安心して楽しく、笑顔で生きがいを持って生活できるよう支援することを理念に掲げ、利用者が主体であることを全職員が認識している。	○	地域密着型サービスへの移行に伴い3年前に理念を見直しているが、利用者と地域との関わりを支援する視点で改めて理念を検討し、地域に密着した事業所としてのケア方針や姿勢を明確にしてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目の届くところに掲示し、その都度話し合いながら、実践に向けて取り組めるようにしている。			玄関やホール、事務室に理念を掲示し、日々の話し合いや毎月のカンファレンスなどで理念を確認し、笑顔を提供するための考えや実践について職員間で共有している。		
	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	行事等で地域の人に参加してもらったり、地域の行事に参加し、理解を得られるように取り組んでいる。					
<b>2. 地域との支えあい</b>								
	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時は、あいさつしたり、来訪者には、笑顔で対応を心がけたり、近隣の方が孫を連れて遊びに来られたりしている。					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加し、地元の人と交流できるように努めている	○	地域活動に参加できるように支援していく。(盆踊り、清掃日、植樹祭等)	地域の祭りやチャリティーショー、敬老会などに参加し、朗読やマジックのボランティアが定期的に事業所を訪れ交流している。 また、地域の婦人会が雑巾を届けてくれるほか、地区の民生委員が訪問して関わりを持ち、小・中・高校生の体験学習を受け入れている。		
	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	各事業所のそれぞれの役割があるため、どこまで踏み込んだ支援が出来るかわからない。					
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>								
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	質の向上、利用者の安全、安心を考え評価を活かし、事業所全体で取り組んでいる。			外部評価をケアの振り返りの機会と捉え、職員一人ひとりが自己評価に取り組み、その結果を職員間で検討しながら管理者がまとめている。 また、外部評価結果を基に改善計画を作成し、課題事項を運営推進会議や職員会議で検討しながら具体的な改善につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を設け、出席者から意見を出してもらえよう雰囲気づくりに努め、サービスの向上につなげているようにしている。			運営推進会議では事業所の状況報告のほか、外部評価結果の課題を提起して質問や意見を求め、改善に向けて反映させている。 また、前回評価で提起していた利用者の参画を試みるなど、前向きに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月一回地域ケア会議に出席し、情報交換したり、その都度、市町村担当者に聞きながら対応している。			地域包括支援センター主催の地域ケア会議に管理者が毎月出席し、利用者の状況に応じて福祉事務所などと連携しながら情報収集に努めている。		
	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員のみ理解に留まっている。	○	勉強会を開催し、必要な人に活用できるように支援していく。			
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し実施、マニュアルを作成し、カンファレンス等で話し合い、職員の意思統一を図っている。					
<b>4. 理念を実践するための体制</b>								
	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、利用者、家族へ十分な説明をし納得の行く方法で行っている。					
	13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の困っていること、意見等話しやすい雰囲気づくりに努めたり管理者、部屋担当者が中へ入り意見を聞き、話し合い反映させている。					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、生活状況を手紙で知らせている。又、3か月に一度ホームだより、金銭収支票を報告。受診の結果もその都度行われている。又、面会時にも生活状況を説明している。			利用者一人ひとりの健康状態や生活の様子を毎月手紙で報告しているほか、3か月に1回「たんぽぽ西目だより」を発行し、事業所の行事など全体の状況を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置。苦情処理のフローチャートを説明。その都度、声掛けをし機会をつくっている。又、話された時は、家族へ感謝し。その都度、職員で話し合い、サービスに反映させている。			意見箱を設置しているほか、家族の面会時やケアプラン見直しの際にも意向の把握に努め、意見や要望があれば速やかに職員間で検討のうえ改善につなげている。 また、家族と利用者とのバス旅行や忘年会などでも意向を確認している。		
	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや状況に応じてその都度、意見を聞き 意見交換したり、反映させている。					



外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じて、職員の人数、時間帯の確保、調整に努めている。					
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ一年一名の離職者のため新しい職員が入ってきたものの、職員の勤務調整をし混乱もなく、ケアは配慮、継続されている。			基本的に職員の異動は行わない方針であるが、退職に伴い新任職員が加わった場合は、日中は職員間でフォローしながら利用者に関わり、夜間は二人体制をとるなど、利用者の精神的な負担軽減に努めている。 また、職員の異動時は家族にも伝え、理解を得ている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>								
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。又、職員自ら担当となり、2カ月に1回定期的に勉強会を開催している。			法人内の研修計画に基づいた研修のほか、必要な外部研修に参加し、研修報告書により研修成果を共有している。 また、2か月毎に職員が講師役を務めながら自由にテーマを決め、職員間で勉強会を行っている。	○	職員一人ひとりの将来像や目標を掲げ、それに基づいて必要な研修に参加し、評価を行いながら次年度の目標や研修計画に反映させるなど、段階的にスキルアップできる仕組みづくりを検討してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地区のグループホーム連絡協議会にて交流の機会を持ち、勉強会やネットワークづくりをし、質の向上に取り組んでいる。	○	年2回となっているので、もう少し回数を増やしていき現場の声を反映させていく。	県や圏域の連絡協議会に加入して研修会などに参加し、他の事業所を見学するなどしてサービスの質の向上につなげている。	○	職員交流の機会が少ないと認識しているため、これまでの交流によるネットワークを活用し、職員同士が事業所を訪問して実践を学ぶなど、相互に交流できる機会づくりに努めてほしい。
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	カンファレンス等で気軽に話し合い、意見交換をし、ストレスを軽減する工夫をしている。					
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の努力や頑張りはあるが、実際状況を把握できているかは定かでない	○	資格手当や研修参加への援助等を働きかけていく。			
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>								
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>								
	23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	表情や動作面等を観察し、本人の思っている事を引き出せるような言葉掛けや対応をしている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の不安や要望等を聴く機会を設け、受け止め理解するように努めている。					
	25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望する支援に応えられる様に配慮し、又、担当のケアマネージャーと話し合いながら対応に努めている。					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	相談の段階で、家族と共にホームに来て頂き、場の雰囲気を体験して頂きながら本人、家族がなるべく納得していけるように相談しながら行っている。			管理者が自宅を訪問して本人及び家族の意向や要望を確認したり、事業所を見学して雰囲気を体感してもらうなど、納得したうえで利用につなげている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>								
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の生活歴を把握し共に作業しながら、知恵や慣わしを学び、支えあう関係を築けるように努めている。			調理の味付けや干柿づくり、餅の括り方など利用者の経験から教わり、畑づくりや花の植え方なども共に行うことで支え合う関係を築いている。 なお、利用者が主体であることを基本に据え、できることは積極的に関わられるよう促している。		
	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の行事を企画したり、受診、外出等の協力をお願いしたり、利用者を中心に情報提供しながら、家族と共に利用者を支えて行っている。					
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族への感謝の気持ちを忘れないように支援したり、家族参加の行事や面会時、良い関係が保てるような取り組みをしている。	○	記念日や誕生日に家族からのメッセージ（手紙等）を書いてもらったり、又、電話等で会話する機会を多く持てるようにしていく。			
	30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ家族の協力を得ながら、行われている。又、本人の意向を組みながら行われている。					
	31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	トラブルが生じた場合は、職員が間に入り、孤立しないように声掛け支援している。又、気の合わない利用者同士が同席しないように見守りしている。					
	32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後もホームに来られたり、ハガキが頂いたり、関わりを続けている。又、いつでも寄ってもらえるようなあいさつや雰囲気づくりをしている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>								
<b>1. 一人ひとりの把握</b>								
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度、本人に希望や意向を確認したり、カンファレンス等で話し合いながら、なるべく意向に添うように努めている。			日々の暮らしの中で会話や表情、言動から一人ひとりの思いや意向を感じ取るよう努めている。また、利用者の担当制とし、一緒に居室の掃除をする際に二人だけで会話する時間を設け、その際に希望や不安等を確認している。		
	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当のケアマネージャーや家族から情報を収集し、その人らしい生活を送れるように努めている。					
	35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出来ること出来ないことをアセスメントしながら努めている。又、本人の意欲や興味を見極めながら把握に努めている。					
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>								
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族から意見、要望を聞きながら、できる限り思いに添えるよう、又、本人が安心して生活できる環境を提供できるように努めている。			利用者と担当職員が共に居室の掃除を行い、二人きりで利用者の意向を把握しており、計画作成担当者が家族の意向や気持ちを把握し、職員間で意見交換しながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しをし、状況に応じて行うようにしている。又、状態に変化がなければ、継続という形をとっている。			利用者一人ひとりの目標を番号付けし、日々の経過を丁寧に記録して3か月毎のモニタリングに反映させている。また、6か月や3か月毎の見直しのほか、担当職員が気づきノートを活用して利用者の変化や意向を把握し、家族の要望を確認しながら随時に見直している。		
	38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昼夜の様子や気づきを個別記録し、申し送りやカンファレンス等で共有しケアの実践につなげている。					
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>								
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設の老健の看護師に来てもらい、状態を見てもらったり、併設施設の協力を得ながら要望に応じられるようにしている。			家族による通院を基本としているが、状況に応じて職員が付き添うなど柔軟に対応している。また、母体老人保健施設の看護師や栄養士による健康管理、栄養管理の連携体制があるため、利用者及び家族と職員の安心につながっている。		



外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>								
	40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	医療機関と協力できている体制にある。又、民生委員、ボランティアも定期的に来られ支援されている。	○	本人の意向に地域資源としての関わりを持てる働きかけをして行く。(警察、消防等)			
	41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて話し合いをしている。又、身体機能の状況によって他サービスの利用を支援している。					
	42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的にケア会議にて情報交換を行っている。					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々それぞれ、入居以前からの医療機関を受診。又、状態に応じて、家族と相談しながら、協力医院の受診を支援している。			利用者のかかりつけ医を優先し、通院時には日々の健康記録を持参してスムーズに受診できるよう配慮している。 また、かかりつけ医による往診のほか、母体医療法人が協力医となっており、薬局とも連携を図りながら利用者の健康管理に努めている。		
	44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の受診は、家族の判断に委ねている。ほとんどかかりつけの医療機関を利用。その都度、症状を主治医へ報告、相談し、治療を受けている。					
	45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護師に昼夜問わず相談できる体制にあり活用、協力を得ている。					
	46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院、家族と常に連絡を取りながら行われている。					
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	少しずつ状態に変化が見られる都度家族、主治医等と話し合いの場を設け、対応方針の共有に取り組んでいる。			利用者の重度化に伴い事業所で対応できることを契約時に家族へ説明しており、母体老人保健施設の看護師とも連携しながら必要に応じて医療機関への入院や他施設の利用につなげている。	○	看取りに関する必要性を認識しているため、今後の利用者の重度化を想定し、看取りに関するマニュアルの整備や母体老人保健施設を含めた医療機関との連携体制を強化しながら、利用者及び家族の意向に応じた重度化及び看取りへの対応を検討してほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の人は現在対象としてない。「できないこと」は明確に家族に説明し変化に備えて、その都度話し合いを行っている。又、併施設とも情報提供し話し合っている。					
	49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	話し合いや情報を提供し、本人が混乱しないように生活環境を少なくするように努めている。					
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>								
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>								
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>								
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	カルテ等は必要以外ステーション内で記録をするよう徹底しているが、声掛け対応については気をつけて接しているが、感情的になり、時折プライバシーを損ねているときがある。	○	職員同士、声をかけ合ったり、注意し合っている。常に自分を振り返る姿勢を持つ。又、接遇や対応の仕方の勉強会を繰り返し行っていく。	職員勉強会や研修で利用者への接し方を確認し、優しく丁寧に声をかけ、排泄誘導時には他利用者へも配慮しながらさり気なく接している。また、個人記録等は事務室のキャビネットに保管し、取り扱いを徹底している。	○	前回評価結果を受け、「たより」や広報誌への個人情報の取り扱いを口頭で同意を得ているが、個人情報保護方針に広報等への使用について盛り込み、書面で同意を得よう工夫してほしい。
	51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の出来ること、出来ないことを見極め、その人の持つ力で思いや気持ちを表し、納得できるように支援している。					
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望、ペースを大切に、本人の希望に添えるよう出来るだけの支援をしている。			自由な散歩や趣味活動を楽しむ方、仏壇に毎日お水をあげる方など、利用者の生活リズムに合わせて柔軟に対応している。また、事業所の日課としてたんぽぽ体操を実施しているが、強制することなく自由に参加している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>								
	53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	各居室に洗面所が設置されており、容姿を整えている。又、近所の美容院へ行き、思い思いの髪型にしたり、外出の際は、お化粧品やお気に入りの服を着ておしゃれをして出掛けている。					



外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の役割分担が出来ており、持っている力を活かしながら、職員と共に準備や後片付けをしている。又、職員と共に食事を楽しんでいる。			買い物から調理、盛り付け、配膳、後片付けまで利用者と職員が共に行い、タケノコや山菜など季節の食材を取り入れている。 また、母体老人保健施設の栄養士が栄養バランスに配慮しながら献立を決めており、毎食の検食結果を取りまとめて利用者へ好評、不評なメニューを把握し、率直な感想から献立や調理方法に反映させている。 さらには、利用者専用の箸や湯飲みを使用し、同じテーブルで会話しながらゆっくりと食事しているほか、行事の際の特別食や外食などで食事を楽しんでいる。		
	55	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、たばこは事業所では、基本的に禁止されているが、その他の嗜好品は出来る限り希望に添えるようにしている。又、旬のものを取り入れ季節を実感出来るようにしている。					
	56	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように「尊厳の保持」に配慮して支援している	失禁のないような声掛けを心がけているが、過度な声掛けをしている時がある。又、個々に合った状況に応じたオムツの使用をしている。	○	個々の排泄パターンを知り、失敗のないような声掛けをして行く。			
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	日中の入浴のみとなっているが、本人の希望に添えるように配慮している。又、皮膚疾患や汚染時にも柔軟に対応している。			基本の入浴日は週3日としているが、利用者の希望に応じて毎日でも入浴できる体制を整えており、入浴を拒む方には声かけや時間をずらすなど工夫しながら入浴を支援している。 また、行事を兼ねて温泉に出かけたり、状況に応じてシャワーや清拭で対応し、同性介助にも配慮しながら快適な入浴を支援している。		
	58	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室、畳、ソファ等で、状況に応じて、個々それぞれ思い思いに休まれている。					
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>								
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴等を参考にし、一人一人に合った役割や楽しみが出来るように支援している。又、散歩や行事を取り入れ、気分転換を図っている。			食事の準備やあと片づけ、洗濯干しや居室の掃除、畑仕事などの役割をできる範囲で率先して行っている。 また、刺し子やちぎり絵、職員自作の計算ドリルなど趣味や得意な活動に取り組み、毎月の誕生会や散歩、買い物、美容院などに出かけて気分転換している。		
	60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物、受診時、外出時等、個々に応じて支払ってもらっている。又、希望や状態に応じて個人でお金を管理されている人もいる。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑仕事、草むしり、天気の良い日は散歩、ドライブ等を楽しんでいる。又、行事等で外へ出る機会を作っている。			散歩や買い物など日常的な外出のほか、ぶどう狩りや季節毎のドライブにも出かけ、外出の機会を確保している。 また、桜や紅葉見物などは利用者が行き先を決め、利用者の自宅への外泊も支援している。		
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事（お食事会、遠足、ぶどう狩り等）や家族の協力を得ながら出来る範囲で支援している。					
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望に添えるように、いつでもやり取りが出来るようにしている。又、手紙を毎日のように書かれている方もいる。					
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	誰にでも気軽に訪問出来るように開放されており、居室、ホール、畳で会話出来るようにしている。又、職員も気兼ねなく過ごせるような言葉かけを心掛けている。					
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>								
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、勉強会を開き理解し、意識を持って、取り組んでいる。					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	夜間以外は鍵はかけていない。自由に外へ出られるようになっている。又、ベランダから自由に入りできるようになっている。			日中は玄関に鍵をかけず、センサーなども解除し、職員の見守りを徹底することで利用者の所在を確認している。 また、隣接の老人保健施設職員や近隣の美容院や酒屋などとも連携し、地域で利用者を見守る体制づくりに努めている。		
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認は常に意識し行われている。又、職員同士の声掛けも密にしている。夜間も時間毎に巡視している。					
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態を見極めながら行っている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書、ひやりはっと報告書を活用し事故防止に取り組んでいる。又、その日のうちに対策を話し合い職員へ周知徹底している。					
	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	マニュアルや勉強会はしているが、実践訓練は定期的に行われていない。	○	全ての職員が応急手当や初期対応が出来るよう定期的に、実践訓練に取り組んでいく。			
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を実施。又、併設施設の職員や推進会議にて、協力が得られるよう話し合いをしている。			防災訓練計画やマニュアルを作成し、消防署の指導に基づき年2回の避難訓練を実施しており、隣接する老人保健施設の協力も得ている。 また、町内会長が緊急連絡網に加わり、夜間緊急時に駆けつけてくれる体制があり、非常食を確保して緊急災害時に備えている。	○	訓練への地域住民の参加を呼びかけているが、調整がつかず実現できていないため、引き続き理解と協力が得られるよう働きかけるとともに、具体的な役割も明確にして緊急災害時の協力体制を確保してほしい。
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居契約時、家族の面会時、その都度電話や、手紙等で話し合いの場を設けている。又、対応策を話し合っている。					
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>								
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に観察をし、体調の変化や、異変の発見に早期に努め、主治医や併設施設のNSへ相談し対応している。					
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を活用し、薬剤の変更、臨時薬等を含め、副作用等の身体の状況の把握に努めている。又、記録をとり、医療機関へ情報提供をしている。					
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の状況に応じて、朝起きたての牛乳、ヨーグルト、水を飲んでもらったり、運動を取り入れたりしている。					
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後お茶を飲んで頂いたり、義歯の洗浄や、うがい、歯磨きの声掛けを支援している。					



外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう状況を把握 し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じ た支援をしている	併設施設の栄養士の作成した献立を使用。栄養の バランスは摂れている。水分量も一人一人の状態 に応じて支援している。			日曜日や行事時以外は母体老人保健施設の栄養 士が献立を作成し、利用者の状態に合わせた調理 方法や一人ひとりの食事・水分摂取量を記録して 職員間で共有しており、カロリーや栄養バランス に配慮している。		
	78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取 り決めがあり、実行している（インフルエン ザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルによって取り決め実行できるような体 制にある。	○	実践出来るよう定期的にシュミレーションしてい く。			
	79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場とし ての台所、調理用具等の衛生管理を行 い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努 めている	毎日、漂白殺菌し、衛生管理に努めている。又、 食材も新鮮な物を使用している。					
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>								
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>								
	80	○安心して出入りできる玄関まわりの工 夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親 しみやすく、安心して出入りができるよ うに、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周辺に花壇を作り、草、木、花を植えてい る。					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や臭いや光がないよ うに配慮し、生活感や季節感を採り入れ て、居心地よく過ごせるような工夫をし ている	採光や温度調整をしたり、換気や臭いに配慮し、 快適な生活が出来るように努めている。			事業所内は明るく清潔で、不快な音や臭いもな く、ホールの中央に広い畳のスペースがあり、利 用者が座りやすい高さや炬燵を置くなど過ごしや すいよう工夫している。 また、居間から続くサンデッキがあり、そこか ら庭に出入りできるほか、手づくりの大きなカレ ンダーや季節感のある装飾などで快適な空間づく りに努めている。		
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所 づくり 共用空間の中には、独りになれたり、 気の合った利用者同士で思い思いに過 せるような居場所の工夫をしている	ベランダ、ソファ、畳、居室、食堂等で、思い 思い自由に過ごせるようにしている。					
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、使い慣れた家具や写真等 を持ってきてもらったり、身体機能に合わせ居心 地よく生活出来るように支援している。			クローゼットと洗面台を備え付け、ベットや布 団、タンス、テーブルなど自宅で使っていた家具 を持ち込み、仏壇や鏡台、家族の写真や花などを 飾り個性ある生活空間づくりを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	その都度、適切に調整されている。又、利用者の状況、希望も取り入れ対応している。					
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>								
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や段差をなくしている。又、シャワーチェア、滑り止めマットを使用し状況に応じて工夫している。					
	86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来ること、出来ないことを個々それぞれアセスメントし、見極め失敗のないようにしている。					
	87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑仕事、花植え、洗濯物干し、お天気の良い日はベランダや玄関前にてお茶やレクリエーション等活动を通して、楽しみながら生活している。					

※  は、重点項目。

項目		自己評価	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

◎個々の能力を活かし、主体的に取り組めるように方向性を持って支援している。  
 ◎生活リハビリに加え、筋力が低下しないように、畑仕事や、散歩、レクリエーション、運動、歩行練習等を取り入れている。  
 ◎嚥下障害や誤嚥性肺炎の予防に、口腔ケアや体操を取り入れている。  
 ◎体調管理に努め、併設施設の看護師と連携を取り、迅速に医療的対応が行われる。